

(第7号様式の2)

事業報告書

(※必要に応じて枠を広げてご記入ください。)

1 事業名	パーラー公民館からつなぐ地域防災、安全マップづくり事業
2 事業実施期間	令和 4年 7月 ~ 令和 5年 2月
3 事業実施内容 *具体的に記入 してください。	<p>(実施日、場所、対象者、参加人数、内容、周知方法など)</p> <p>8月・9月・10月・11月・12月代表者会議開催 10月29日(土) 曙公園 地域住民 約100名 パーラー公民館でハロウィンを開催。ハロウィン終了後に「防災紙芝居 雨上がりの探検隊」をボランティア学生が朗読しクイズ形式で質問、子どもたちの色々な回答があり会場の皆さんと一緒に危険な場所や災害時の注意点を学びました。</p> <p>11月5日(日)曙小学校域 地域住民 55名 那覇市地震津波避難訓練に曙地域として参加し、シェイクアウト訓練、地域にある津波ビル(沖商ビル)へ、避難路の歩き方、乳母車の危険性、避難時子どもは負ぶったほうが良い。車いすはリヤカーにして操作した方が扱いやすい事を実感。階段を使って小学校の屋上への避難では、4階までの階段は高齢者には厳しい等の声もありました。また、避難後に救助を待つ間の雨風、太陽をどう避けるかというリスク、食事、トイレなど避難訓練では避難先での問題点も確認できました。</p> <p>避難訓練でのアンケートでは参加55名中、初めて避難訓練をした人の半数が高齢者でした。災害時の避難持出しを準備している10名、これから考える30名(訓練後に思った)地域の避難訓練を体験できて良かった。50名 防災マップの必要性は全員が必要と回答でした。</p>

	<p>1月29日(日)曙小学校 12名 親子で防災ウォーク in 曙 2回目 前回、グループ毎に地図に書き込みした個所を全体の地図に避難ビルを番号で、一時避難ビルを囲い、凡例のマークや避難経路を確認し大まかにマップ作成ができました。その後「那覇市の防災」のDVDを鑑賞し防災について再確認した。</p> <p>2月18日(土) 曙小学校 10名 パーラー公民館 「曙地域の安心・安全防災マップ」の最終チェックとなります。 脱字、マークの漏れなどを確認しまち協定例会にて報告し印刷しました。</p>
<p>4 事業実施における数値目標 (中間報告書で示した数値)</p>	<p>災害時の安心・安全マップ作製</p>
<p>5 上記4の数値目標の達成度</p>	<p>(例：90 パーセント達成 (理由：〇〇)) 100 パーセント達成 事業開始後の動きがコロナの影響で鈍っていましたが、11月5日の地震津波避難訓練で意識が高まりました。 12月10日の三まち協連絡会では曙地域のマップ作りの参考になる話が聞けたこと、「親子で防災ウォーク」の参加者が積極的に参加しマップ作製に挑戦したことで今回の「曙地域安心・安全防災マップ」ができました。</p>
<p>6 事業の成果</p>	<p>(対象や地域、社会にどう貢献したかなど) 対象地域：曙小学校区まちづくり協議会 地域貢献：災害に対して意識が低かったが、避難訓練やまち歩きを体験したことが意識を高めることとなり、防災の学習会や避難訓練の実施や防災マップの必要性を語っていました。</p>

11月20日(日)曙小学校 曙っこまつり 300名

11月5日の地震津波避難訓練を参考にし、防災マップクイズで津波避難ビルや避難道をクイズで出題。子どもたちは避難訓練で避難経路はわかるが地域の避難ビルを知らないと言うので地域の方と一緒にクイズで知ってもらい防災ウォーク in 曙で再度確認してもらうことにしました。

12月10日(土)曙小学校 三まち協連絡会 20名

三まち協連絡会議を開催。うみやま連携まち歩きで石嶺小学校から曙小学校までのウォーキング。曙小学校で非常食を食べながら、曙地域(海側)は津波で被災、石嶺地域(山側)は地震時のがけ崩れでの被災が考えられる。まち協連携の拠点になるのは銘苅まち協になると思われる。被災を最小限にできる防災、減災をさらに考えていく必要性と災害発生時に山側と海側および中間地点のまち協として助け合い、協働および相互支援ができるまちづくり・地域ネットワークづくり「防災うみやま連携」を進めています。

さらに、防災マップの大きな役割についても話があり曙まち協のマップ作りに大変参考になりました。終盤は非常食が美味しかったこと、沖縄の昔人の保存食の知恵、ローリングストックの話になり災害時の食についても考えました。

1月21日(土)曙小学校 親子 40名 パーラー公民館

「親子で防災ウォーク in 曙」1回目 曙1丁目・2丁目・3丁目(港町)を3グループに分かれウォーキング。指定避難ビルはもちろん一時避難ビルになるであろう建物もチェック。また、危険な建物、道路、がけ崩れの危険個所(特に1丁目は道路に沿って危険個所が多い)を確認し手持ちの地図に書き込みました。こども110番の家が少ないことに気づきがあり、地域の店舗に協力依頼も提案がありました。親子で歩き地域を知る良い機会となり防災マップの必要性を直に感じていました。

7 評価	<p>① 良かった点、工夫したこと</p> <p>良かった点 地域で防災学習（リッカヤールキャラバン）ができたこと 災害時の防災対応訓練ができ親子で災害対策に関心できた事 那覇市地震津波避難訓練に参加できたことで災害、被災の意識が できその中で防災マップの必要を実感できたこと</p> <p>工夫したこと 避難訓練でのアンケート調査や避難時の非常食の提供</p> <p>② 苦労したこと、改善点、今後に活かしたいこと</p> <p>苦労したことは、公園利用申請に間に会わずパーラー公民館の開催 ができず、地域に防災マップの説明が広報できなかつたこと。 改善点として申請ができなかつたときに学校のピロティで開催し たことで校内に居る子どもたちや大人が参加してくれたのが良か つた。</p> <p>今後に活かしたいこと 「曙地域安心・安全防災マップ」ができたことで防災・減災を意識 し避難訓練等に役立ててもらいたい。</p> <p>また、防災マップだけでなく地域の紹介などを発信できるマップつ くりも必要と考えられます。</p>
8 今後の展開 (継続、内容変 更、終了など)	<p>地域の人たちが意識を持ちはじめたきっかけになった防災、減災を 考える事業なのでまちづくり協議会として今後も継続していく予 定です。リッカヤールキャラバンのプログラムを利用した学習会 や避難訓練などパーラー公民館で実施していきます。</p>
9 その他の意 見、感想など	<p>地域での防災意識がだんだんと浸透していく中まだ20%位です。 地域でできる防災・減災をパーラー公民館で拡散したいと思いま す。</p>

10 事業実施に関して協力（連携）した行政機関・他団体の有無。該当する箇所に☑等を記入してください。）、協力の内容について記入してください。

行政の協力（☑企画立案に協力 ☑資金提供 ☑告知などの協力

☑その他（ 那覇市防災危機管理課 ）

他団体の協力（☑企画立案に協力 □資金提供 ☑告知などの協力

☑その他（石嶺小学校・銘苅小学校まち協 ）

□ 無し

行政や他団体への今後の連携についての期待・要望など

（ 那覇市チャレンジ助成金での事業を進めることができました。避難訓練では新たに防災危機管理課との連携ができ大きな力になりました。

三まち協での「うみやま連合防災部会」ではつながりを深め地域で取り組む防災を、三まち協連合会として情報交換し学んでいきたい。